

# 武豊町 3 月定例議会

## 梶田稔議員の一般質問・答弁

注：録音テープから起こしたものです。（文責：梶田 稔）

私は、先に議長宛提出した質問要旨に基づいて、町政に関する若干の問題について質問し、町当局の明快な答弁を求めるものであります。

第一の質問は、住民の暮らし・福祉をよくする施策の改善・充実を求める問題についてであります。

長引く不況の中で、住民の雇用・収入減の不安がますます深刻の度を増し、暮らしや福祉の改善・充実を求める声がいっそう高まっています。

先に実施した「住民アンケート」にも、数多くの要望が寄せられています。

全国有数の「豊かな財政力」を持つ武豊町は、いまこそ住民の要望に応える行き届いた行政にその財政力を優先的に活かし、住民の要望と期待に応えてもらいたいと、切に願う次第であります。

この立場から、以下、具体的な施策の実施を求めるものであります。

まずはじめに、富貴・東大高地域の保育園で、ゼロ歳児保育が実施されていません。子育て支援の一環として、町南部の保育園でもゼロ歳児保育を、ぜひ、実施してもらいたい。

次に、この3月から、小児用肺炎球菌ワクチン等の接種が始まりました。しかし、高齢者の死亡原因の高位を占める肺炎疾患を予防するための高齢者用肺炎球菌ワクチンの接種が見送られています。近隣市町でも実施しており、ぜひ、本町でも実施してもらいたい。

第3に、一人暮らし高齢者のための「緊急連絡通報装置」の貸与に制限条件が設けられているために、貸与希望者の要望に応えていないケースがあります。制限を緩和・撤廃して、全ての希望者に貸与するようにされたい。

第4に、高齢者・障がい者・介護認定者など移動困難者への生活支援の一環として、生ゴミ・資源ゴミ・粗大ゴミ・廃家電などの戸別収集を実施されたい。

第5に、民主党政権のもとでマニフェストに明記された「後期高齢者医療制度の廃止」が反故にされようとしています。戦後の諸困難を乗り越え、復興に貢献してきた高齢者の労苦に報いるためにも、75歳以上の医療費無料化を実施されたい。

以上で、登壇しての質問を終わりますが、答弁の内容によっては、自席より再質問いたします。

## 町当局の答弁

初山芳輝町長答弁：梶田稔議員から、住民の暮らし・福祉をよくする施策の改善・充実について、5点のご質問をいただきました。

私からは、1番目のゼロ歳児保育の実施についてのご質問にご答弁を申し上げたいと思います。

現在、ゼロ歳児保育は北保育園、西保育園、北中値保育園の3園で実施をいたしております。定員は各園6人で全体で18人となっております。

また、平成23年度からは六貫山保育園での実施を予定をしております、6人の定員増を図ります。

ご指摘のとおり、南部地区での配置はありませんが、当面はニーズに対応できるものと考えております。そして、今後は本町におきましても、子どもの人口は徐々に減少していくものと推測をいたしております。

一方で、働く女性は増加をしていくと見込んでおまして、低年齢児の入所割合は上昇していくものと思われまます。従いまして、ゼロ歳児保育の充実につきましても、今後の重要な課題になってくるものと考えております。

これまで、ゼロ歳児保育を実施するためには施設整備等が伴いますので、主に園舎の増改築等により施設を整備した保育園で、新しくゼロ歳児保育のサービスを実施をまいりました。

また、現在、保育園等整備計画を策定をいたしております。その中で、老朽園舎の建て替えやリニューアル工事も含め、検討をしているところであります。

その整備時期、財政状況等との整合も図りながら、いますぐという訳にはまいりませんが、町全体のゼロ歳児保育のニーズ量等を勘案する中で、ゼロ歳児保育サービスの充実も検討をまいりたいと考えております。

私からは、以上であります。他のご質問につきましては、担当からご答弁申し上げますので、よろしくお願いいたします。

小坂延夫厚生部長答弁：続きまして、小項目の2、高齢者用肺炎球菌ワクチン接種費用の公的助成の実施についてであります。

昨日の加藤議員へのご答弁と基本的には同様でございますが、若干の補足をさせていただきます。

高齢者用肺炎球菌ワクチンの普及に当たりまして、国ではまだその安全性について明らかにしていないというのが、そういう状況でございます。

この点につきましても、また加藤議員への答弁も含めまして、今後の動向を見極めながら、その対応についての研究をしてみたいと考えております。

続きまして、小項目の緊急連絡通報装置を全ての希望者に貸与されたいという関係でございますが、本町の緊急連絡通報装置貸与事業は、一人暮らし高齢者を対象に平成3年度か

ら実施をいたしております。

その目的であります、身内が近くにいない一人暮らし高齢者が、急病や災害などの緊急時にボタンを押すだけで、予め指定した方に連絡を取ることができ、迅速かつ適切な対応を可能にするというものでございます。

この一人暮らし高齢者の要件でございますが、65歳以上で、武豊町に住民登録のある方、といたしまして、同一敷地内及び該当者の住所地から500メートル以内に、息子さんや娘さんなどが住んでいない。またといたしまして、これはと、とというふうになると思いますが、住んでおられても、養護義務を果たしてくれないということ、これらが要件になってございます。

全ての希望者に貸与するようにとのご提言でございますが、現行の制度を継続してまいりたいと考えております。

しかしながら、近くに見守りをしていただける息子さんや娘さんが居られても、安心のために緊急連絡通報装置を設置したいというご要望がありますれば、費用はご負担はしていただきますが、今後、斡旋できるよう事業者と調整をしてまいりたいというふうに考えております。

続きまして、小項目の、高齢者・障がい者・介護認定者などへの生ゴミ・粗大ゴミ・廃家電などの戸別収集の実施について、お答えさせていただきます。

平成22年9月の第3回定例会の決算認定の中で、同趣旨のご質問をいただいております。

高齢者・障がい者・介護認定者などの、ゴミ搬出が困難な各家庭までへの戸別収集は、現在も状況は変わっておらず、行っておりません。

高齢者の所在不明、幼児虐待、防災意識の低下、ご質問のゴミ問題など、さまざまな問題の原点には絆の欠如も大きいと考えられ、近隣住民同士の見守り、助け合い、共助の精神の重要性が叫ばれております。

安全で安心な町づくりの求心力となります地域ぐるみの取り組みの一つとして、地域のみなさまのお力をいただければと考えております。

続きまして、小項目の75歳以上の方への医療費の無料化をとということでございますが、高齢者の医療制度につきましては、昨年、高齢者医療制度改革会議におきまして議論され、国民健康保険と被用者保険への被用者の振り分けや都道府県単位での国保の広域的な運営を目指すことが取りまとめられたところでございます。

しかしながら、国と地方の財政負担のあり方ですとか、都道府県と基礎自治体となる市町村との事業運営の分担内容など、今後、調整すべき事案が残されており、まだはっきりとした形になるまで調整期間が必要であると考えられます。

さて、75歳以上の高齢者の医療費の無料化を実施されたいとのことでございます。この件につきましては、いままでも先の定例会も含めまして何度かご質問をいただいております。

ご承知のように、武豊町では、子育て環境のいっそうの充実を図るため、今年1月から中学生までの子どもさんの医療費の完全無料化を実施させていただきました。

また、この3月からは、子宮頸がん予防ワクチン等の全額公費負担による接種を開始をいたしました。

一方、財政運営上等からやむなく、23年度から国民健康保険税の引き上げをお願いしているところでもございます。

こうした状況の中で、課題の一つであると思っておりますが、今後、国等の動向を十分注視しながら、国や県の制度に則し、事業の展開を図ってまいりたいと考えております。

以上であります。

## 梶田稔議員の再質問・答弁

梶田稔議員質問： 若干の点を再質問したいと思います。

1点目の富貴・東大高地域でゼロ歳児保育をと、やる気はないと鰐膠(にべ)もなく拒否をする答弁ではなかったことが、せめてもの幸いではありますけれども、答弁にあったように、現在実施しているのは北と西と北中根と、まさしく町北部に偏在していると。

今回、新年度からは、六貫山保育園でも実施を予定しているというわけですが、これは、富貴・東大高地域に住んでみえるお母さんたち、乳飲み子を抱えたお母さんたちからは、切なる願いですね。

なぜ、私たち町南部に住んでるものだけが、こんなことで放置されるんだと。これは、行政そのもの、単なる保育行政だけじゃなくて、粕山行政、粕山町政そのものに対する厳しい批判となって声が出ているわけです。

これは、本当にぜひ一刻も早く実施してもらいたいということ、切に要望せざるを得ないわけです。

一部分の行政に対する不満じゃないんです。粕山町政全体に対する不満となって、その一環として出ているということ、本当に深刻に受け止めてもらいたいというふうに思うわけです。

それで、老朽園舎の改築時だとか、耐震化や必要なリニューアルの際には、併せて検討するということから、もちろん検討して欲しいわけですが、これは一刻も早くいうふうに思うんですけれども、いま整備計画を策定中というわけですが、その策定作業の中で差し当たって改築・リニューアルが必要だと認識している園舎はどこになりますか。

小坂延夫厚生部長答弁： 東大高保育園あるいは北中根保育園が対象で、差し当たりというわけでごいませんが、改修の予定になってございます。

また、竜宮保育園につきましては、いわゆる統廃合、富貴保育園との統廃合の対象になっておるということ、それからわかば保育園についても他の利用も含めて統廃合の方向になっておるということございまして...、あ、済みません、南保育園がリニューアル工事を28年に予定しておりまして、一番近いやつですと、中山保育園が平成25年、それから南保育園が28年ですね。それから、北中根が建て替えも含めてでございますが29年・30年ぐらいで、東大高がこれは建て替えでございますが、32年ぐらいということでありまして、幅がございまして建て替え期間があるものですから、東大高が平成32年・33年の改築予

定ですね。それから、富貴保育園が31年にリニューアルを予定いたしております。  
富貴地区に関しては、そういうことでございます。

梶田稔議員質問：私が、本当に切実な要望として寄せられているという紹介をしたわけで、いま一連のことを、また別の機会に統廃合の問題については、私たちは基本的に反対しているものですから、今日の主たる質問のテーマではないものですから、後日に譲りたいと思うんですけども、その整備計画の中で優先順位をいまいろいと説明がありましたけれども、ぜひ町南部の保育園の施設整備を優先的に、まずそこから手掛けてもらって、その中のメニューの一つとして、このゼロ歳児保育を入れるように検討してもらいたいですけれども、検討していただけますか。

小坂延夫厚生部長答弁：南部だけを特にというふうには、なかなか難しいと思っております。この整備計画に沿って、もちろん将来いろんな要素が加わってくればですね、この計画そのものを変更せざるを得ないというふうに思っておりますが、いま段階では整備計画に則して対応してまいりたいというふうに考えてございます。

以上であります。

梶田稔議員質問：なぜ、それにこだわるのか。例えば、リニューアルするのに、この園舎改築するのに1億円要ると、建て替えるのに3億円要るという数字が出てきますね。

その際に、町南部でゼロ歳児保育という切実な要望があるんだから、年度が33年度でやろうが28年度でやろうが、いずれはやらなきゃならんのでしょ。その時に、なぜ、そういうことにこだわるんですか。

そういう要望にも勘案して、年次計画については、優先順位については、施工年度については、検討の余地有り、その住民要望との関係で提起しているんですが、なぜいま策定の途中の段階で縷縷（るる）説明がありました年度にこだわるんですか。

検討の余地がないんですか。

小坂延夫厚生部長答弁：まず、その要請、要望あるいは需要の関係でございますが、私どもといたしましては、ご答弁でも申し上げましたように、今の段階でほぼ、ほぼですけども、いわゆる要望は満たしているというふうに理解しておりますし、かつ私どもはこのご質問をいただいたときに、全園長に確認をいたしました。これは、ゼロ歳児保育をやっておるところばかりではなく、南部だけでもなく、11園全部に確認させていただきましたら、園長のところにはそういう要請は届いていないということございまして、あと全部を承知しているわけではございませんが、町長への提案ですとか、あるいはモニターとか、含めてそういう要請は、大変申し訳ありませんが私のところでは聞いておりません。

但し、答弁の中にもありましたように、これからの子育て環境という意味では重要なものだというふうには理解しておりますので、その点をご理解を賜りたいと思っております。

梶田稔議員質問：何というんですかね、住民の声とか住民のニーズに対する感覚が麻痺しているんじゃないですか。

確かに、何年前でしたか、いわゆる通園区域というのを事実上撤廃して、自由化して、どこでも入れますよ、便利になりますよというかけ声の下で、いわゆる通園区域、小学校区・中学校区という同じような区域制というのを廃止した、便利になるという触れ込みだった。

だから、現に乳飲み子を抱えているお母さんは、富貴の笠松からであろうが北保育園まで連れて行ってお願いをする、西保育園までお願いに行く、そういうことで差し当たってニーズに応えているという姿は、その通りだと思いますよ。

だから、ニーズに応えていない、いま足りていない、いうことを言ってるんじゃないんです。

なぜ、笠松から北保育園まで行かなきゃならんのか、私だけがという意味ですよ。だから、それを諦めて、知り合いの方に保育をお願いしているということではなくて、乳児保育は確かに足りているんです、現在。だけど、そういう実態を町は少しも考えてくれないと、なぜ考えてくれないのかと、なぜ富貴や東大高の人が不便を辛抱しなきゃいかんのかと、いう要望なんです。そこをはき違えてもらっては困る。

園長さんのところには言っていないかも知れないし、部長・課長のところには声が届いていないかも知れないけれども、そういう不満を持っている。しかも、深刻な不満、強い不満を持っているという紹介をしているわけです。

ですから、現に届いているかいけないか というんじゃなくて、先ほど来の質疑もありましたけれども、議員がこういう場所で発言するということは、そういう住民の要望があるから言ってるわけで、私が絵空事で、隣の町議会ではうわさ話を話題にして懲罰を受けたという報道が今日ありましたけれども、絵空事でうわさ事で私は話しているんじゃないんです。現に、深刻な声として寄せられているから紹介しているんです。

ですから、ぜひ応えてもらいたい。優先的に、南部のメニューに加えてもらいたい。もう一度、答弁して下さい。

小坂延夫厚生部長答弁：私は、決して絵空事だというふうには思っておりません。それは、十分聞かせてもらっていますが、個別の事案がございましたら、子育てでも私のところでも結構ですので、ご相談いただければというふうには思っております。

自由園区にした経緯については、私は直接には承知しておりませんが、多くの要望があっ自由園区にしたというふうに理解しておりますが、結果、自由園区にしたから、いわゆる良かったという人とたまたま自分の家の前の保育園に抽選で入れなかったということもございます。

それは、個々の事情で全て完璧な保育行政ができているとは思っておりません。良かれと思って、よりベターな方向に向けて対応したというふうに思っておりますし、現在もそういうふう考えております。

あと一つ、それは決して良いというふうに申し上げませんが、子どもは行政区域として4 km × 6 kmの非常にコンパクトな町であることもご理解いただきたいと、当然、4 km × 6 kmだ

から全てOKだというふうには思っておりませんが、近隣市町でも例えば西海岸・東海岸があるような地域もございますし、あるいは広い行政区域を持たれている地域もございます。

そうした中で、広いからダメで近いからOKというふうには申し上げておりませんが、行政全てに関しまして、私どもは遍く町域全体を考えて町長の指揮・命令の下で常に対応させていただいておりますし、いわゆる南部がダメだとか北部が良いだというふうには決して思っておりません。

町域全体を我々の行政区域として、いわゆる行政需要も含めて行政要望も含めて対応させていただいておりますので、その点についてはご理解を賜りまいたいというふうを考えております。

以上です。

梶田稔議員質問：次から次へのものが言いたいことが一杯出てくるんでしょうがないけれども、保育園の園域の自由化なんていうのは、何が住民の利便性のためにですか。とんでもない話なんで、そういったことはまた機会があれば議論したいと思います。

それで、本当に切実な要望がありますので、保育園の整備計画、せっかく整備計画を検討するわけですから、要望に応える内容を含めて検討してもらいたいことだけ、念を押しておきたいというふうに思います。

次の高齢者用肺炎球菌ワクチンの接種が見送られましたけれども、部長の答弁で、補足してと言うことでわざわざ、まだ全国的には安全性が確認されていないというわけですが、本当にそうですか。

それにしても、県内で既に11の団体が実施しております。これらの名古屋市をはじめとする11市町村が実施しておりますけれども、これらの自治体が安全性を無視して強行していると、そんなふうには私にはとても思えませんね。

安全性、これは医師会と十分話し合っ、医師会の協力を得ながら実施していると思います。それは、私は軽々しく安全性が確認されていないなんてことを言ってもらいたくないということだけは指摘しておきたいと思います。

それで、昨日の質疑の中で、数字を部長が報告されましたけれども、70歳以上の高齢者の数が5438人、費用見込は1件8000円、間違いありませんか。

小坂延夫厚生部長答弁：8000円というのは絶対8000円という意味じゃなくて、概ね8000円程度だという意味合いでありまして、人数についてはその通りだというふうに理解しております。

梶田稔議員質問：費用負担が大変だと言わんばかりに、数字を発言するわけですが、東海市は、この知多地方でも平成20年度から実施しておりますけれども6500円、阿久比町の話が昨日も出ましたけれども、阿久比町は7100円で積算しております。なぜ、8000円なんて数字を言うのか。しかも、昨日の話では、5438人全員100%ワクチンを打てば4300万円。ワクチン接種100%やるなんてことはあり得ますか。

因みに、健康課長がみえるんで、新型ワクチンを高齢者に助成して接種しておりますけれ

ども、何%ぐらい接種しておりますか。

羽村房雄健康課長答弁：22年度はまだ決算が出てませんので、見込ということでさせていただきます。インフルエンザ、4300人ということで、接種率は5割、50%というところでございます。

以上です。

梶田稔議員質問：そのように、もちろん大切な予防ですから100%接種受けて欲しいと、私もそう思いますけれども、現実にはそういう事態、期半ばとは言え50%ですね。本当に、これは接種率高い方だと思いますよ。

任意ですから、私の感じとしては、もっと少ないということをお自身は予測しているんですけれども、現実50%。

例えば、50%だとして、阿久比町並の7100円の状況で言えば、100%受けたにしても3800万円、1年間、50%で言えば1900万円という数字ですね。

東海市並の1件6500円ということであれば、3500万円余り、50%で言えば1700万円余り、ということになるんです。

そういうことも含めて、ぜひ検討してもらいたいというように思います。

昨日も、意見が出されておりましたけれども、高齢者の死亡原因のトップは言うまでもなくガンですけれども、肺炎による死亡者は4位を記録していて、平成21年度の実績は11万2000人、しかもその内の65歳以上の肺炎を原因とする死亡者は、実に95%にのぼっているという統計上の数値があるんです。

これらの方への予防接種が実現できれば、かなりの部分が健康を取り戻すことができるというふうに思うんですけれども、ぜひ、検討して欲しいわけですが、見解を聞かせて下さい。

小坂延夫厚生部長答弁：まず、最初に加藤議員への答弁の関係でございますが、全額補助したらいくらかというご質問でしたので、全額をお答えさせていただいたのと、因みに50%ですと半額ですよというようにお応えさせていただきましたので、その点についてはご理解賜りたいと思います。

それから、値段の8000円の関係でございますが、国が8100円前後ぐらいを標準な単価だというふうに示しているもんですから、それでお答えさせていただいたということと、市町によりましては、例えば、実情を全て承知しているわけではございませんので、明確かどうか分かりませんが、例えば、大きな市民病院を持っておられるようなところと全くそういうのがないところとでは、若干、いわゆる医療技術も含めて若干差があるのかなと、これは確定ではございませんが、そんな感想を持っております。

答弁の関係でございますが、答弁させていただいたように、課題とは思っておりますけれども、今後は俟ちたいというふうに考えております。

以上であります。

梶田稔議員質問：私は、やるのであれば全額助成をして、本人負担ゼロでやってもらいたいと思いますけれども、選択肢の一つとして、例えば、度々名前が出る阿久比町では、3000円を助成して本人負担4000円ということでは実施していると、東海市全額公費助成ですけれども、そういう本人に一部負担をしていただいて実施をするということも含めて、検討の余地はありませんか。

これは、即刻、実施して欲しいと思うんですが。

小坂延夫厚生部長答弁：先ほど来の答弁で申し訳ありませんが、もちろんその地域の実情も承知してのご答弁というふうにご理解いただければと思います。

今後の情勢は見なければいけないと思っておりますが、国県の条件に則して対応させていただきたいと、現時点ではそう考えております。以上であります。

梶田稔議員質問：ことが、高齢者の健康や命に関わる施策の一つでありますので、ぜひ、前向きに、と同時に一日も早くということ、重ねて要望しておきたいというふうに思います。

次に、緊急連絡通報装置ですが、部長が一人暮らし老人の施策の適用の条件として、三つあげられました。

同一敷地内及び500メートル以内に云々という、この500メートルというのは、どういう根拠で設けているんですか。

小坂延夫厚生部長答弁：私も確認をいたしました。確たる根拠はございません。決めたときに、概ね500メートルというふう聞いております。

で、それですと私どもはさせていただいておるということで、法的な根拠が500メートルであると言われると、私は承知はいたしておりません。

それで進めてまいっておりますので、私どもとしては500メートルを一つの基準にしておるというふうに理解をしております。

梶田稔議員質問：昨日の、どなたかとのやりとりの中で、厚生部長はNHKで放送された無縁社会という言葉が使われました。

残念ながら、私もその無縁社会というのを、悲しい現実として認めざるを得ません。それは、隣の人が亡くなって、白骨化して、何ヶ月も後に発見されるなんていう、そんな悲しい淋しい事件が報道されるのを見て、いったい日本の社会どうなってるんだろうと、いうことを率直に思います。

しかし、現実が現実です。現実を踏まえて、行政は施策を打たなければなりません。

それで、500メートル、いま部長は、端なくも確たる根拠は認識されていないというわけですので、私はこの500メートルは撤廃してもらいたい、というふうに思います。

と言うのはですね、隣の部屋に寝ていても、住んでいても、緊急の場合に、朝起きるまでは知らなかったということだって、現実にあります。私の知り合いの時でもありました。ま

してや、同一敷地内に別棟で部屋を持っているというような時に、一旦緩急あっても知る由もないというのが現実ですよ。

ですから、せめて離れであっても、2・3軒隣に息子さん・娘さんが住んでおっても、緊急の場合に連絡する装置、これは本当に必要だと思うんです。

敢えて無縁社会などということを行わなくても、必要だと思うんです。

ある人から、本当に、先ほどの朧山町政に対する批判ではありませんけれども、私は、納税と言い、各種の地域からの寄附だとか協力の要請に、いままで真面目に協力してきたところ、私が緊急連絡装置を申請したら、近くに息子さん夫婦が住んでいるから、あなたは該当外ですと、突っ慳貪に言われたと。もう、それを言われて、それを聞いて、これはいままで本当に町政に協力してきた、地域のいろんなことに協力してきたけれども、私はそれに一切その声を聴いて協力を拒否することにしましたと言っておられました。

心情的には、そうだと思うんです。私は、そういう点で、500メートルということは、別の所でも担当者に話したことがありますけれども、いろんなところでギクシャクしているんです、この500メートルという条件が。

本当に、撤廃して欲しいと思いますけれども、いかがですか。

小坂延夫厚生部長答弁：私は、全ての経緯を詳細に承知しているわけではございませんので、500メートルに関しては、再度、確認をしてみたいと思っておりますが、行政、当たり前でございますが、法律であろうかあるいは法律でなかりょうか、一定の基準いわゆる一定のルールに基づいて対応をするというのが、基本的なスタンスでございます。

もちろんオールOKというケースもございますが、これにつきましては、500メートルという形で従前からさせていただいておりますので、基本的には500メートルは維持をしまいたいというふうに考えてございます。

但し、大きな問題があって、今後、500メートル、じゃあ400メートルならいいのかどうか、300メートルならいいのか、いや実は撤廃したほうがいいのかとかいろいろありますので、現在の所につきましては、500メートルルールについては、この形で運用させていただきたいということと、それからご質問にありました、私どもの職員の対応がもし悪かったということでありましたら、それは大変申し訳ないなというふうに思っておりますので、今後、十分お客さんへの対応については親切・丁寧をモットーにしていかなければならないというふうに、改めて感じているところでございます。

そして、答弁の中でもございましたように、ご要望があれば有料ではございますけれども、いわゆる事業者、これはNTTでございますが、にご紹介させていただくと、橋渡しはさせていただくという答弁をさせていただいておりますので、ご理解を賜りたいと思っております。以上です。

梶田稔議員質問：部長が、私の言い方が誤解を与えているようですから、一言触れておきますけれども、私は職員を責めているわけではないですよ。そういう決まりになっているから、決まり通りに職員の方が、これはまさに真面目に誠実に、その町民の方に伝えただけの

話であって、その職員の対応を非難するつもりはありません。

いま繰り返し言うように、500メートルという基準があるから、その伝えに行った職員はその通りに伝えただけの話であって、決して職員には非はありません。その500メートルという規制を撤廃してもらいたい。撤廃すれば、たちどころに解決する問題なんです。

なぜ、あなたは400メートルならどうの、300メートルならどうのと言って、私は500メートルという距離の要件などは、全く問題外、撤廃すべきだということを提起しているわけで、撤廃するということの如何を検討していただきたいと思えますけれども、もう一度、お答え下さい。

小坂延夫厚生部長答弁：現在のところ、現行の対応をしまいいたいというふうに考えてございます。以上です。

梶田稔議員質問：それでは、有料にはなるけれども、そういう要望があればN T Tに紹介をしたいというわけですが、一つの装置、単価いくらですか。

小坂延夫厚生部長答弁：まず、N T Tの設置料が3045円、それから機器のレンタルが月399円。現在、225方がご利用になっておりますが、N T Tも独自の私どもとは違う福祉要件というのを持ってございまして、これはまた別途お知らせしたいと思えますが、本人負担額はいま申し上げた町のレンタル費用と同じようになろうかと考えております。

それから、一般の方、つまり武豊町にも該当しない、N T Tの要件にも該当しないということになりますと、設置費用が税込みで5649円、それからレンタル料が月920円となっております。

梶田稔議員質問：限られた時間ですから、余計なことは応えていただかなくても結構ですけれども、この1件当たり4000円弱の設置料で月々のレンタルが399円、町内の方は。

わずか399円ですよ。なぜ、そんなことが、要望に応えることができないのか。しかも、この500メートルなどという訳の分からない規制を設けて、断らなけりゃならんのか。そのために、町長にまで不信感が及ぶなんていう事態、担当者として、どう思われます。

小坂延夫厚生部長答弁：町長への不信感については、私はちょっと論ずべき立場にございませんが、費用の多寡ということではなくて、こういうルールでさせていただいているということで、ご理解を賜りたいと思えます。

梶田稔議員質問：わずか、私は敢えて言いますけれども、399円のために、町政に対する不信を蔓延させると、まあそれは一人二人のことだとは言え、他の配食サービスなど高齢者サービスのいろんなことに、先ほど三つ紹介した規制は及んでいるわけで、このことは真剣に検討してもらいたい。

今日、限られた時間で、それ以上の答弁がなさそうですから、要望だけしておきますけれ

ども、そんなことで、これから高齢社会、安心安全な社会をめざす、武豊町をめざすと盛んに言う武豊町の町政のあり方を、傷つけて欲しくない、ゆがめて欲しくない、いうことを切に願っておきたいと、要望しておきたいというふうに思います。

次に、4番目に、高齢者・障がい者・介護認定者など、移動困難者への生活支援の一環として、ゴミ等の搬出支援の戸別収集をということで、これは、半田市ではもう既に担当者ご承知だと思いますけれども、要望があれば戸別に訪問して収集をしますという制度が、現に動いておりますね。

厚生部長は、何時ぞやのこの議場でのやりとりの中で、福祉の施策において近隣市町の後塵を拝するつもりはないと大見得を切りましたけれども、後塵を拝しているじゃないですか。

半田市でやっている状況、まあそっくりマネをせよと、あそこは直営でやってるわけですが、武豊町は委託してるわけですから、もともと形は違うわけですが、同じような施策をやっていただけませんか。

小坂延夫厚生部長答弁：まず、私は大見を切ったつもりではありません。私は、そう感じたのでそう申し上げたということをご理解いただきたい。

それから、半田市の関係でございますが、私ども他所様のこと、事細かく言う立場にございませんが、常武と半田市のクリーンセンターとは、大きく事情が異なる部分があります。ご承知かと思いますが、半田市のクリーンセンターには、現業職員が市の職員として市の車をもってやっておられる部分と、常武と同じように業務委託を含めてやっておられる部分がありますので、その市の職員が業務として対応しておるといふふうに理解しておりまして、私ども常武がやってる事情とは異なるというふうにご理解を賜りたい。

以上です。

梶田稔議員質問：だから、私が前置きしたように、もともとの形が違う。それは、私自身も百も承知しているから言ってるわけで、しかし、ゴミ収集業務そのものでいうとどこが違うんですか。

確かに、武豊町では、私の認識で言えば、エイゼンをお願いして、そういう民間企業が委託料を元にして、ステーション収集をやっている。

そのステーション方式の中に、委託業務の中のメニューの一つとして戸別収集、しかも全世帯をやれと言ってるんじゃないです。

一人暮らしで、あるいは老々世帯で、しかも障害があったり、あるいは介護認定を受けていたりという特定の家庭への生活支援の一環としてと言ってるわけですから、それが何軒あるか私は担当者にもデータを確認しておりませんので、ただ数十軒かあるいは百軒単位になるかどうかの数字だと思ふんです。

そういうところへ、委託料、1軒お願いすると委託料がいくら掛かるかも分かりませんので、もしデータがあれば紹介して欲しいんですが、そんなに驚くほどの金額を足さなければ、エイゼンが引き受けてくれないという話ではない。私は確信を持ちますけれども、1軒お願いしたときにいくら費用が掛かるのかを含めて、資料があったら紹介して下さい。

小坂延夫厚生部長答弁：大変申し訳ありませんが、資料は持ち合わせておりませんので、また、取り寄せて研究してみたいと思います。

私ども、ちょっと答弁してございませませんが、いわゆる福祉がらみでありまして、いわゆる社会福祉協議会のヘルパーさんが、ご要望に応じて、もちろん条件ございますし、いろいろとございますが、対応していただいております。これは、前にご答弁させていただいておりますので、ご理解いただいておりますと思いますが、そういうことですので、よろしく願いいたしたいと思いません。以上です。

梶田稔議員質問：いま、支援事業の一環として、ヘルパーさんのメニューの一つにそういった家庭支援もあると、もちろんそれも承知しております。

しかし、制度として設けるということを提案しているのは、そこに乗っからない人、言葉が適切かどうか分かりませんが、グレーゾーンと言われる一人暮らしのお年寄り、介護認定受けたけれども、認定の数値としては表れてこないけれども、たいへん苦労してみえる方もみえます。

ですから、そういう人たちに、希望を募って、私は公費でやっていただきたいと思いますけれども、いくらかの自己負担もお願いして生活を支援するということも含めて、ぜひ検討してもらいたいと思いませんけれども、見解を聞かせて下さい。

小坂延夫厚生部長答弁：私どもといたしましては、可能な限り、もちろん制度あるいは税も含めてでございますが、どういう方向が良いのか研究はしてみたいと思いませんが、基本的には、有料だと考えてございませるので、ご理解を賜りたいと思いません。

以上です。

梶田稔議員質問：次の75歳以上の医療費無料化問題について、もう時間がありませんので、強く要望しておきたいと思いません。

それから、武豊町の財政力、私は「豊かな財政」というように表現しましたけれども、不交付団体は全国でわずか70団体しかありません。

その内の、武豊町は一つに入っているんですね。全国的にも、20位前後に位置している。愛知県では、今度の再算定で、町村では3位に、飛島、幸田に次いで武豊町は3位の財政力です。

こういう財政力を、福祉増進・向上に振り向けると、これは地方自治法引き合いに出すまでもなく、当然お地方公共団体の責務です。

そのことを最後に強く指摘をし、要望して終わりたいと思いません。

以 上